

MRI検査及び造影剤の説明確認書

MRI検査では、より正確な診断を行う為、検査の途中で静脈内に造影剤を投与して造影検査を行います。造影剤を使用しなくても検査は行えますが、十分な診断が出来ない場合があります。

MRI検査は強力な磁場を用い撮影を行います。CT等と異なりX線を使用しない為、被爆がありません。磁場を用いて検査を行う為、心臓ペースメーカー・埋没型補聴器・人工内耳・磁石式インプラントなど精密機器および磁性体金属が体内に入っている方は検査が行えません。検査を行うと発熱・故障の原因となります。

狭い空間での撮影となりますので、閉所恐怖症の方は検査を行えない場合があります。

○ ガドリニウム造影剤

造影剤は、ガドリニウム造影剤を使用して検査を行います。ガドリニウム造影剤は安全な薬ですが、場合によっては副作用が起こる事もあります。

○ 副作用の種類・頻度

造影剤投与後60分以内に現れる有害事象は「急性副作用」、1時間から数日後に現れるものを「遅発性副作用」といいます。

※ ガドリニウム造影剤については、軽微な症状を含めて1～2%の患者に副作用が生じることがあります。4万人に1人の割合(0.0025%)でショック症状を生じ、さらに稀ですが死に至るケースもあります。

※ 残念ながら、造影剤投与によって引き起こされるショックの原因は不明で、事故を予知することはできません。ただし、以前に中等～重度の副作用を発症したことがある場合は、重度の副作用の発現率が6倍高くなり、また喘息やアレルギー症状がある場合もリスクが6～10倍上昇します。

○ 穿刺部の合併症

造影剤注入時の合併症では、造影剤を勢いよく血管内に注入する事により血管外に造影剤が漏れることがあります。この場合、穿刺部が腫れて、痛みを伴います。基本的には、時間と共に吸収されていきますが痕がしばらく残ることがあります。症状が重い場合は、別の処置が必要になる事もあります。